

平成31年度 廿日市市学校教育の取組

- 自分の考えをもって、相手に伝える子ども
- 他者と関わり、協力して課題を解決する子ども
- 廿日市を知り、愛着と誇りをもつ子ども

子どもたちが自ら進んで学ぶ教育を進めます

「交流したくなる！」「深まる！」授業づくり

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現・「受ける」から「参加する」授業へ
 - ・「課題発見・解決学習」の推進（単元、教科をつなぐ視点からの見直し）
 - ・授業における子どもの考えを説明させる場面の重視〔可視化して検証できる授業研究の工夫〕
- ICTの効果的な活用・意図した活用へ
 - ・「考えを持たせる」「考えを説明させる」ために



〔プログラミング教育やICT活用教育に係るプロGRESS研修の実施〕

子どもが自ら学びたくなる活動・環境づくり

- 「ふるさと学習」の充実・「考えたくなる」「伝えたくなる」学習に
 - ・体験したことを言語でアウトプット
 - ・学びを「ふるさと学習発表会」で発信
- グローバル化への対応・英語を使うことのよさの実感
 - ・外国語教育の強化
 - ・基隆市、メキシコ代表チームとの交流
- 読書環境の充実・行きたくなる図書室に
 - ・本を読むきっかけの提供
 - ・読む力の育成

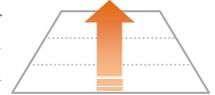


子どもたちに寄り添い心を育てる教育を進めます

「明日も行きたくなる！」学級づくり

- 教職員がつくる「居場所」児童生徒がつくる「絆」
 - ・「つながり支援プロジェクト」の徹底
 - 自己有用感を育む視点であらゆる活動を工夫・改善

貢献（役に立った）→
承認（認められた）→
存在感（安心できる）→



○生徒指導上の諸課題の改善・学校を「安心・安全」な「居場所」に

- ・不登校
新たな不登校を抑制する「未然防止」の取組
- ・いじめ
積極的な「認知」と「解消」に向けた慎重かつ丁寧な取組
- ・暴力行為
暴力を許さない風土の醸成
加害児童生徒へ寄り添い、毅然とした指導



○アセスの効果的な活用・「ギャップに着目」

- ・気になる子どもへ先手を打つ
- ・適応感の低い子どもに まず面談〔校内研修を支援〕

児童生徒の自主的な活動づくり

○生徒会サミット・「自治」「交流」「継承」

- ・話し合うテーマを生徒から募集
- ・児童会へ成果を普及
- ・決定した取組の継承〔生徒会担当者の会の充実
生徒会サミット通信の発行〕

特別支援教育の視点に基づいた学習指導と生徒指導

○適切にアセスメントする力と対応力の向上

○ユニバーサルデザインの考え方を生かした教育活動

○家庭や関係機関との丁寧な連携

教職員が育つ職場づくりを進めます



「働き方改革取組方針」の実行

- チーム学校を支える支援体制の充実 市費非常勤職員の配置
- 校務支援システムの有効活用
- 学校の実態に応じた業務改善
- 通知等を削減、校内周知の効率化

○プロGRESS研修・サポートの充実

- ・教職員の活躍の場に
- ・特別支援学級担任への支援

○学校、教職員の頑張りを発信

- ・「市教委だより」等の活用

地域と学校が連携・協働して子どもの成長を支えます



○地域学校協働活動の充実

- ・今までの体制を基盤に地域と学校が「連携・協働」
- ・学校を核とした地域づくりの推進

〔平成31年度より、学校支援地域本部から地域学校協働本部に移行〕